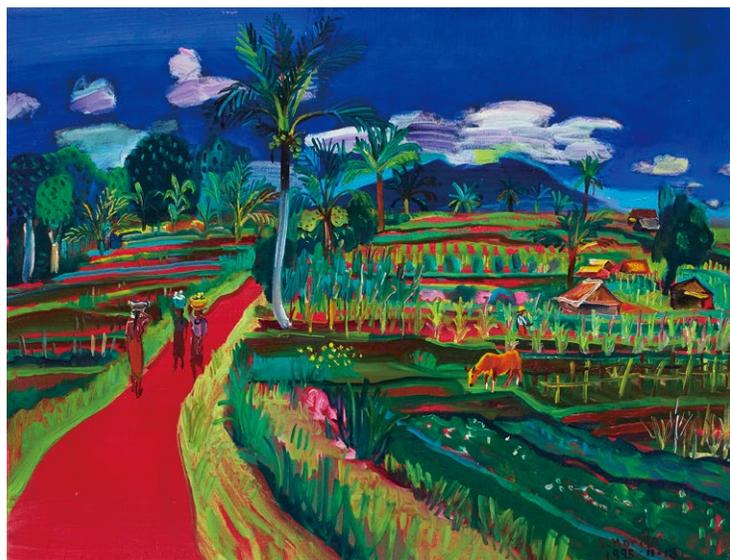


大地が、太陽と、水と、緑と、風と、月と、星と、いつも一緒に在るように、現場で仕事をしたい。



「赤い道」(65.2×50.0cm)

# 乗田貞勝 画業50年

～未来へ、子どもたちへーバリ、唐津からの伝言

会期/  
2023年 1月7日<sup>土</sup>～22日<sup>日</sup>

会場/  
第1会場 40点 唐津市近代図書館美術ホール  
(唐津市新興町23番地 電話 0955-72-3467)

第2会場 25点 旧唐津銀行1階ギャラリー  
(唐津市本町1513-15 電話 0955-70-1717)

開館時間/ 10:00～18:00

※唐津市近代図書館は1月9日、16日休館

観覧無料



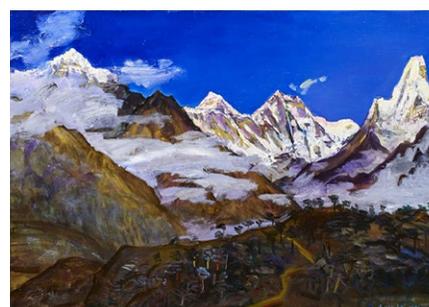
唐津市菜畑の自宅兼アトリエ前で

唐津を拠点に、バリ、ヒマラヤ、チベット、ネパールと、旅の中に「命の道」を追い続けてきた画家乗田貞勝。半世紀にわたる画業の集大成となる展覧の中に、魂の遍歴を辿り、次代へのメッセージを託す。

【略歴】1944年、佐賀県鹿島市生まれ。鹿島高校、佐賀大学特設美術科卒業後、美術教師となり、呼子中学校、厳木高校などに勤務。1978年、インドネシア・バリ島へ初めての制作の旅、以後、渡航100回に及ぶ。1979年、美術教師を退職、唐津市菜畑に自宅兼アトリエを構え、画業一本の道を歩む。唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」、玄海町庁舎など公共施設の壁画の原画を手掛ける。

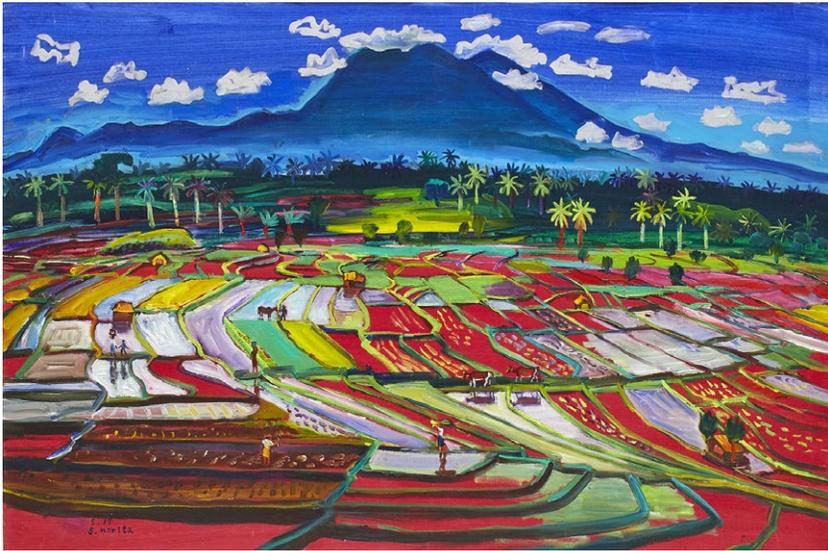


「朝陽」(50号変型)



「エベレストへの道(シャンボジェにて)」(91.0cm×65.2cm)

「朝焼け(唐津)」(F50号)



「ソリタガンガの棚田」(40号変形)



「クタの夕日(白道)」(50.0x100.0cm)



「チャニザサの海」(50号変型)

## ご挨拶

画家乗田貞勝が唐津の街並みを望む高台に自宅兼アトリエを構えたのは、1980年でした。以来、インドネシア・バリ島への渡航は100回を超え、豊穡の自然、そして生命の循環を鮮烈な赤と青で描き、東京と福岡で毎年交互に開く個展では多くの人を魅了してきました。

そんな画家人生の中で、2021年秋、福岡・三越美術画廊で開いた個展の際、買い物の途中、偶然立ち寄ったという唐津市の初老の男性が「あなたみたいな画家が唐津にいるとは知らなかった」と感銘の面持ちで話しかけ、数日後、再び会場を訪れました。その話を聞いた友人や旧知のファンが、地元では初めてとなる展覧会を思い立ちました。

乗田はバリ島をはじめ、アジア各地を旅する中で、自然への畏敬の念と共に、観光や開発によって変わっていく風景に危機感を深めてきました。コロナ禍が続く2023年新春、これからの私たちの足元を照らす一灯となることを願います。

実行委員会会長 岩本剛人



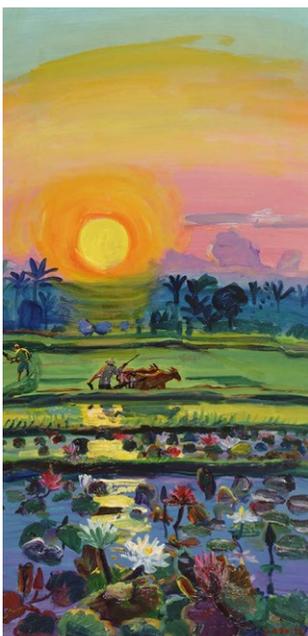
「平和の木〜ウクライナに寄せて」(2022年、150号)



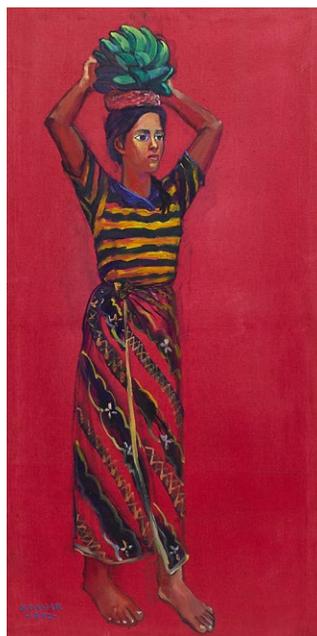
「満月(サヌール)」(65.2x53.0cm)



ネパールにて



「耕至天耕して天に至る」(25号変型)



「パリスへ自然に仕え生きる人は美顔で健康である」(P25変形)

## ギャラリートーク

日時/ 各回14:00~(30分程度)

1月8日、14日、18日、21日

会場/ 唐津市近代図書館美術ホール

定員/ 20人(当日先着順)



唐津・西の浜にて(2021年)

主催/

「乗田貞勝画業50年〜未来へ、子どもたちへ〜バリ、唐津からの伝言」実行委員会

共催/ 唐津市教育委員会、玄海町教育委員会、唐津観光協会、(株)び〜ぶる、佐賀新聞社

後援/ 唐津市、玄海町、唐津商工会議所、唐津中央商店街、(公財)佐賀県国際交流協会、唐津市国際交流協会、九州・インドネシア友好協会、朝日新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、サガテレビ、RKB毎日放送、FBS福岡放送、九州朝日放送、テレビ西日本、FMからつ86.8MHz

問い合わせ/ 旧唐津銀行 電話 0955-70-1717

ご来場の際には、マスクの着用など新型コロナウイルス感染拡大防止へのご協力をお願いいたします